

目力

校 長 武井 正明

日曜日、阪神タイガースがセリーグのペナントレースを制し、史上最速でリーグ優勝を決めた。阪神ファンの妻は応援ユニホーム（背番号8）を着てメガホンを叩いて大喜びだ。石破総理辞任のニュースも、阪神の優勝で霞んでしまった。

今年の阪神は素晴らしい。ベテランと若手が見事に融合、失敗も成功の糧にして、日替わりでヒーローが生まれる。藤川球児監督も、就任1年目ながらどっしりと落ち着いて采配を振るった。優勝した瞬間、ずっと平静を保ってきた監督の口許が、初めて緩んだ時、これまでの重圧や労苦が凝縮されているようだった。

優勝監督インタビューも感動的だった。選手、スタッフ、そしてその家族に対する感謝の言葉が散りばめられ、何よりも熱烈な阪神ファンに対する、心からのお礼が述べられていた。あれで会場にいたファンが感激しないはずがない。

対して我が巨人軍はどうだ。私は、もはや熱烈な巨人ファンではないが、かつて大ファンだった者としては、もう往年のプライドすら伝わってこない。悲しく情けない限りだ。歳のせいか、印象に残る観たい選手も殆どいなくなってしまった。再生の可能性も見えない。非常に深刻な事態だ。

この対照的な2チームの監督と選手を見て、決定的な違いは何か？
私は彼らの「目力」の違いにあると思う。

人と初めて対面する時、私が最も重視しているのが、この「目力」である。

人の姿勢や生き方は、顔に表れると言うが、私は中でも「目」に表れると思う。何かを積極的に掴もうとしている目は輝きが違う。先生方が子どもたちを見つめる眼は、常に輝き、澄んでいてほしいと願う。

残念ながら、阿部慎之助監督の虚ろな目からは、指導者の情熱が伝わってこない。寧ろ、あきらめが伝わってくる。あの眼差しの下でプレーする選手たちの心情はいかばかりか？今の巨人の野球を観ても冷めていくばかりだ。

これは家庭にも言えることだ。何かしらの理由で家庭生活が苦しい時、親が暗く落ち込んでいると、子どもたちも辛くなる。学校で嫌な事があった日であればなおさらだ。

時には顔の上がない日もある。そういう時こそ、元気を出して前を向いて「今日もやってやるぞ」の気持ちで、親も教師も頑張らねば、と思う。

そして今、最も目力のある野球選手は誰か？

それはもう、毎朝試合に出ている海の向こうの、あの人しかいませんよね。